

ファシリティマネジャー のための「防災訓練」 モデルシナリオと活用

上倉 秀之

リスクマネジメント研究部会 部会長
株式会社セノン 取締役執行役員
認定ファシリティマネジャー



災害リスクの高まりとともに、実戦的防災訓練の必要が求められている。しかし、想定を作り上げる作業は手間と時間もかかる。そこで、リスクマネジメント研究部会では、「防災訓練モデルシナリオ」を作成した。

施設では、消防法等の関係で「防災訓練」を行うが、「初期消火」「避難訓練」「AED 操作」などが中心であり、震災から4年を経過した今日では、年中行事化・形骸化・参加者の固定化などが課題となっている。また、入居テナント単位の自衛消防隊地区隊の訓練も日常業務の中で実効性の高い訓練を準備することが難しくなっている。

しかし、首都直下型地震においては甚大な建物被害や、多数負傷者の発生が懸念され、防災センターの人員だけでは、対応できないことが予想される。自衛消防隊本部隊と地区隊・防災ボランティア組織との連携が重要となる。また、帰宅困難者受け入れについても「可能性」と「受入の是非」の議論ではなく、現実問題としての避難者受け入れを想定する段階となっている。

訓練においては、「目的」と「目標」の設定が重要となる。訓練の内容によって例えば「リスクや対応の知識を得る」「具体的な対応の行動を体得する」などの目的と、「知識の理解は・訓練終了後にアンケートで確認」「行動の理解は、訓練時における行動チェック表で確認」などの目標を設定することが望ましい。

また、訓練・演習は組織の練度に応じて段階的にステップアップすることが肝要である。

「防災訓練モデルシナリオ」そのものは、JFMA

ホームページのリスクマネジメント研究部会のサイトにて公開しているが、構成は「自衛消防隊本部隊」と「地区隊」の活動について地震発生直後の15分間と、発生から一時間経過後の15分間についての訓練シナリオとなっている。

本訓練は、自衛消防隊の活動内容の体験を目的としており、建物被害調査、情報収集と発信などを盛り込んだ内容としている。

訓練は、地震発生直後の15分間の「前段」と、発生から一時間経過後の15分間の「後段」に区分され、5分程度のインターバルをおいて実施する。進行役は、進行役用の台本を元に訓練の進捗を見ながら状況付与において程度と数を調整し、隊のレベルに合わせた「忙しさ」を演出する。

モデル訓練を行った結果、訓練を繰り返すことでの速度向上は想定のとおりであったが、情報収集においては「音情報(ラジオなど)」を「視覚情報(ホワイトボード書き出しなど)」に変換することは予想以上の人出を要する。また、情報の分析・発信においては建物周辺だけでなく都道府県単位の地名等の知識が不可欠であることが分かった。

訓練は、準備しなくては実効性が上がらないが、準備が目的ではなく訓練実施による災害対応力の向上と減災の取り組みの重要性の理解を進めることが肝要である。